

## ●徐々に春の足音が聞こえてきます。

梅の花が咲き始め、時々暖かい日差しが春の気配を感じさせるこの季節ですが、まだ寒い日が続いています。暖かい服装で散歩して、公園をてくてく散歩してみてもいかがでしょうか。

### ○ふわふわ毛皮のネコヤナギ

■この時期になると、園内には、銀色の毛に覆われた、まるで猫のしっぽのような花穂が付いた木を目にします。この木はネコヤナギといって、川辺に自生する樹木として古くから日本人に親しまれてきました。形がユニークで趣があるため、生け花の材料としても使われるそうですよ。



①ネコヤナギ

### 各地で異なるネコヤナギの呼び名

ネコヤナギには地方によって様々な呼び名があります。「ネコネコ」、「ニャンコロ」など猫に由来するものや、犬に由来する「エノコロ」、東北地方では牛に由来する「ベコヤナギ」といったその土地によって異なる呼び名があるそうです。（※諸説あります。）川や田の畔などによく見られることや、多くの呼び名があることから、人にとって身近な植物だったのかもしれないね。

### ○御所の梅林

■民家園の南側の斜面には、茶畑と並んで梅林があります。「御所の梅林」と名付けられたこの地には地名碑が建っており、「鴻巣の野御所にいたってにわかに傾き沼に落ちんとす。梅の林これを掩（おお）う。よって名づく。」とその由来が記されています。さてこの季節になると、北西風を公方様の森が遮ってくれるため、あたたかな冬の日差しを体で感じるができます。おすすめは午前中で、特にウメの開花直後の朝などは、とても新鮮なウメの花の香を楽しむことができます。まだ朝は寒い季節ですが、朝の散歩がてら御所の梅林でウメの香りを楽しんではいかがでしょう？



②ウメ

### 梅は奈良時代から人気だった！？

万葉集には梅をうたった歌が120首もあり、萩に次いで多く、梅は奈良時代の人々を大いに魅了していたようです。また、令和の元号のもとになったのも万葉集の梅を詠んだ歌でした。今も昔も日本人は、厳しい冬を乗り越え春を告げる「梅」という植物への想いが強いのもかもしれませんね。

## ●まだまだ寒さの真ただ中、暖かい服装で公園を楽しんでください。

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



### ○オニグルミの葉痕

■冬になるとオニグルミの枝に、ヒツジの顔の形が出現することがあります。これは葉痕といって、葉っぱが木の枝から落ちたときにできる傷跡の模様です。特にオニグルミの葉痕は、ヒツジだけではなく、サルやピエロの顔にも見ることがあり、一つ一つに個性があります。みなさんもオニグルミの木を見つけたら、葉痕を探してみてください。新たな発見があるかもしれませんよ。



③オニグルミ

### 冬になると葉が落ちるのはなぜ？

冬は日照時間が短いため、太陽の光から成長するのに十分な栄養を作り出せなくなります。また、冬は気温が下がるため、乾燥した地面から水分を吸い上げにくくなります。そのため葉がついていると光合成の効率が悪いうえに、葉から水分が蒸散してしまいます。そのため落葉樹は、葉に無駄な栄養や水が行かないよう自ら葉を落とし、厳しい冬に備えるのです。